

2017 年度「研究者の横顔」 平山 貴敏先生

1. 研究者になろうとしたきっかけ

私は、がん専門病院でがん患者さんとご家族のこころのケアを行っています。「何か他にも自分にできることはないか」と考え、がん患者さんのこころのケアに関する研究を通してお役に立てるのではないかと思い立ったのがきっかけです。

2. 助成研究の内容紹介

がんになると、体調は悪くないのに「こじんまりとした」生活をしてしまいがちです。行動活性化療法は、病気にとらわれた生活スタイルを改善するカウンセリングです。この研究では、わが国のがん患者さんに行動活性化療法の効果があるか調査します。

3. 2の将来に繋がる結果予想

行動活性化療法は、食事療法、運動療法、リラクゼーションなどの様々な健康増進法と組み合わせることができます。全国に普及すれば、がん患者さんがより充実した日々を送るために自分自身をケアする方法の一つとして、大いに役立つのではないかと思います。

4. 全国の RFLJ 関係者に一言

研究に助成いただき、本当に有難うございます。研究を通して RFL の活動を盛り上げていきたいと思っております。一緒にがんばりましょう！